

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
2017年度事業計画

I 事業計画基本方針

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2017年度において、以下の基本方針を掲げ、事業を推進する。

1. 財団事業の展開

定款に定められた当財団の目的に沿って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 参加者同士の対話中心の宿泊プログラムを拡充する。
- ③ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。
- ④ 得られた成果を機関紙による広報はもとより、広く社会に発信する。基幹プログラムの成果は出版物として発行などし、知の蓄積を行う。
- ⑤ キリスト教精神に基づき、社会において未だ認知不十分な幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活発化する。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、公益目的事業でのさらなる活用をはかる。また、当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊研修施設を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い使用に供する。
- ② リピート利用者の丁寧なフォローおよび新規利用者の開拓などに取り組み、利用率の向上及び収支の改善を図る。
- ③ 効率的な運営をはかり、公益活動への貢献度を高める。

(3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的使用外の一般使用者、企業等へ宿泊研修施設の貸出しを行い、その収益の一部を公益活動に資する。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資する。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の拡充を図る。

II 関東活動センター度事業計画

2016年度は、関東活動センター事務所や集会室のある日本キリスト教会館の耐震補強・改修工事が完了し、新たな思いで各プログラムを実施することができた。また事務局体制を整え、ボランティア・スタッフが毎週木曜日に事務所を開いて、『はなしあい』の発送作業や各プログラムの準備を整えることができるようになった。一方で、改修工事による各テナントの退去の後を埋めるために、新しいテナントとの契約交渉や改修工事などに追われた。また、会館6階の全フロアを、2017年10月から新たなテナントに貸し出すことになっており、そのために従来6階に設置されていた関東活動センターの事務局を一階に移転することや、新たに集会室をどのように確保するか課題も残っている。そのような中で、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画する。

1. 「今日的課題」Ⅰとして、「古典で読む20世紀」Ⅳを読書会スタイルで実施する。現代ではほとんど読まれなくなった先哲の古典的著作を読み直し、21世紀の現在の時点でその意義を再確認することを目的としている。
2. 「今日的課題」Ⅱは、現在の政治的状況を踏まえて、ポピュリズムに抗する道を探る学習会を企画している。
3. 「宗教対話」Ⅰとして、新企画「日本キリスト教史を読む」シリーズを開始する。これはこの国のキリスト教の歴史を、明治篇（第一世代）、大正編（第二世代）、昭和編（第三世代）に分けて、それぞれの時代に活躍したキリスト者の人物史を取り上げる。初年度は明治篇として6名の人物を取り上げ、そのそれぞれの時代のキリスト教の在り様を浮き彫りにする。
4. 「宗教対話」Ⅱ「これでいいのか日本のキリスト教」は、キリスト教会の枠を越えて様々な分野で活動している若き活動家たちを招き、現代社会への問題提起を聞き、共に考える企画である。また「宗教対話」Ⅲは、「編集者から見た現代日本の知の状況」を連続講座の形で、Ⅳは昨年引き続き柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を共催プログラムとして実施する。
5. 「宗教対話」Ⅴ体験プログラムとして、昨年引き続き「礼拝のためのヴォイス・トレーニング」を実施する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、

説教などの発声・発語訓練を行う。

6. 聖書を読むシリーズでは、入門的な聖書講座と、フェミニズムの立場からの聖書の読み直し、あるいは今日的視点からの聖書の読み方を探ることを目的としている。
7. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2017年度は各神学校の賛助を得て、第9回プログラムを実施する。

フォーラム事業			
関東フォーラム 今日的課題 I	全4回	古典で読む20世紀IV 武田利邦（農村伝道神学校 講師）・李明夫（ルーテル三 鷹教会牧師）	第1回5月12日（金） 第2回7月14日（金） 第3回9月8日（金） 第4回11月10日（金）
関東フォーラム 今日的課題 II	1回	現在の政治を問う「ポピュ リズムに抗して」講師・未 定	7月15日（土）
関東フォーラム宗 教対話 I	全6回	「日本キリスト教史を読 む・明治編」新島襄、海老 名弾正、植村正久、内村鑑 三、柏木義円、新渡戸稲造 講師・戒能信生（千代田教 会牧師）	第1回5月11日（木） 第2回6月8日（木） 第3回7月13日（木） 第4回9月14日（木） 第5回10月12日（木） 第6回11月9日（木）
関東フォーラム 宗教対話 II	全3回	これでいいのか日本の「キ リスト教」向谷地宣明（べ てぶくろ代表）、長尾有起 （北支区宣教師）、和田芳子 （児童相談所所長）	第1回9月16日（土） 第2回11月18日（土） 第3回1月20日（土）
関東フォーラム 宗教対話 III	全4回	「編集者から見た現代日本 の知の状況」講師。中川和 夫（プネウマ舎）	第1回9月16日（土） 第2回10月21日（土） 第3回11月18日（土） 第4回12月16日（土）
関東フォーラム 宗教対話IV	1回	柏木義円公開講演会「柏木 義円と現代」講師・山口陽 一（東京基督教大学教授） 共催プログラム	11月18日（土）
関東フォーラム 宗教対話V	全6回	体験プログラム 「礼拝のためのヴォイス・ トレーニング」講師・友野 富美子	第1回6月5日（月） 第2回6月12日（月） 第3回6月19日（月） 第4回6月26日（月） 第5回7月3日（月） 第6回7月10日（月）

研修・セミナー・体験交流事業			
聖書を読む講座Ⅰ	全9回	『イエスの譬え話Ⅱ』を著者と共に読む 山口里子（日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター）	第1回4月11日（火） 第2回5月9日（火） 第3回6月13日（火） 第4回7月11日（火） 第5回9月12日（火） 第6回10月10日（火） 第7回11月14日（火） 第8回12月12日（火） 第9回1月9日（火）
聖書を読む講座Ⅱ	全5回	「上林牧師と旧約聖書を読む」 講師・上林順一郎	第1回6月9日（金） 第2回7月14日（金） 第3回9月8日（金） 第4回10月13日（金） 第5回11月10日（金）
神学生交流プログラム		第9回神学生交流プログラム 校長 関田寛雄（教団巡回教師）、講師 浅見定雄（東北学院大学名誉教授）	2018年3月13日～15日

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター事業計画

大国が自国の利益を主張して譲らず、平和、公正、共存などが軽視される時代を迎えている。そんな流れの中で、キリスト教精神に基き、正義、平和、いのちが尊ばれる社会の実現を目指し、様々な社会的課題について、根源的解決の道を探るはなしあいを進める。

1. 修学院フォーラム「社会」においては、昨年度から引き続いて「宗教と戦争」について考える。継続的テーマの「エネルギーを考える」の第6回では、「フクシマの問いにどう応えるか」を倫理的視点と技術的視点の双方から考える。SEALDs を担った若者と共に、いかにして民意を政治に反映させるかを考える。佐藤 優氏と共に、昨年度に続いてキリスト教は政治的課題にどう関わるかを考える。
2. 修学院フォーラム「福祉」においては、精神障がい者と共に生きること、子どもの虐待とどう向き合うかを考える。
3. 修学院フォーラム「いのち」においては、ピアノ演奏と語りを通して命の輝きを味わい、愛する者を喪失した時の哀しみにどう向き合うかを考える。
4. 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。
5. これらに加え、今年2月に福者に認定された戦国のキリシタン武将高山右近の生と死について学び、お茶と俳句を楽しみつつ聖書の言葉を味わう

会、紅葉の美しい季節に関西セミナーハウスの景観を背景に、お茶とお箏、器楽演奏を楽しむもみじまつりを催す。

フォーラム事業			
修学院フォーラム 社会	第1回	宗教と戦争を考える：3 古代キリスト教と戦争 土井 健司（関西学院大学教授）	10月7日（土）
	第2回	宗教と戦争を考える：4 内村鑑三の戦争観 岩野 祐介（関西学院大学教授）	11月11日（土）
	第3回	社会的課題にどう向き合うか SEALDsからの問い（仮） 講師交渉中	12月2日（土） （予定）
	第4回	エネルギーを考える第6回 フクシマの問いかけにどう応えるか 倫理的視点から 島 蘭 進（上智大学神学部教授・グリーンケア研究所所長） 技術的視点から 吉岡 斉（九州大学教授、福島原発事故政府事故調委員）	2018年1月7日 （日）-8日（月、祝）
	第5回	キリスト教と政治的課題（仮） 佐藤 優（作家、元外務主任分析官）	2018年2月17日（土）
修学院フォーラム 福祉	第1回	共に生きる（地域）社会づくり ～「からしだね」の実践からみる、 精神障がい者にとっての生きづらさ～ 坂岡 隆司（社会福祉法人ミッションからしだね理事長） 京都YWCAと共催	6月10日（土） 会 場：京 都 YWCA
	第2回	子どもの虐待を考える（仮） 講師交渉中 京都YWCAと共催	2018年3月（予定） 会 場：京 都 YWCA
修学院フォーラム いのち	第1回	ジャズピアノからのいのちを巡るメッセージ（仮） 講師交渉中	未定

	第2回	悲しみが言葉をつむぐとき (仮) 講師交渉中	7月22日(土) (予定)
研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー(協力プログラム) 主催: JICA 関西他	6月25日(日)
	第2回	ビジネスで社会を変える (仮) 吉野 慶一 (ダリ k)	7月15日(土) ~16日(日)
	第3回	「考える」をファシリテートする ~民主主義を耕すために 森 秀樹 (兵庫教育大学教授)	9月9日(土) ~10日(日)
	第4回	日本は“死の商人”になるのか? ~見えない軍事化 杉原 浩司 (武器輸出反対ネットワーク)	10月14日(土) ~15日(日)
	第5回	沖縄のまなざし、沖縄へのまなざし ~メディアが伝える“事実” 安田 浩一 (ジャーナリスト)	11月18日(土) ~19日(日)
	第6回	もっと知りたいイスラム 内藤 正典 (同志社大学大学院教授)	12月9日(土) ~10日(日)
お茶のこころと 宗教のこころ	I	戦国のキリシタン武将、高山右近 の生と死 (仮) 川村 信三 (上智大学文学部史学 科教授、イエズス会司祭)	9月9日(土)
	II 全8回	聖書をいっしょに読みましょう 榎本 栄次 (日本基督教団牧師、 関西セミナーハウス活動センタ ー所長)	4月~12月(除 く8月) 毎月1 回第1または第 2木曜
もみじまつり		茶席、邦楽、美術展示、音楽演奏 関西セミナーハウスと共催	11月23日(水、 祝)

IV 関西セミナーハウス事業計画

2017年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りである。

1. 運営方針

1) 公益目的事業の拡大

関西セミナーハウス活動センターや他の教育機関、学会、研究会、諸団体と連携し、その文化・教育・社会貢献活動への参画を拡大する。

2) 収益事業の展開

公益目的以外の一般利用者、企業等への宿泊及び研修施設の貸出を積極的に推進する。

3) 公益活動への貢献

2016年度に引き続き、公益財団法人の活動を支えるために一定額を設定し、財政的な貢献を担う。

4) 有形、無形財産の活用

茶室、能舞台、日本庭園などの京都らしい文化的設備が持つ特色を生かしつつ、利用者に満足をもたらす運営を行う。

5) 広報活動の強化

ホームページ、メールマガジン、ダイレクトメールなどを通じて、本施設を幅広く、継続的に広報する。

6) 利用者拡大の努力

広報活動のほか、人的活動を展開し、長年、本施設が支えられているコア利用者（大学、企業、キリスト教諸団体等）への丁寧なフォロー、新たな利用者の獲得に努力する。

7) 柔軟な料金体系の設定

適時、季節と繁忙を考慮した柔軟な料金体系を設定する。

8) 健全な収支の確保

利用者の拡大、諸費用の節減などに取り組み、収支のバランスを整え、事業の継続性を確かなものとする。

9) 施設の更新

施設改修に充てるための資金を可能な限り積立て、老朽化している施設の更新を行う。

2. 主な数値目標

1) 収入計画 (P&L ベース)

売上高	1億1,617万円
営業利益	△431万6,000円

2) 設備投資

年間総額	380万円
主な案件	未定

3) 宿泊者目標

上半期	4,800名 (前年度比 92.3%)
下半期	4,200名 (前年度比 93.3%)
年間	9,000名 (前年度比 92.8%)

4) 年度期首要員 16名